

恵那市産業振興ビジョン検討部会ワークシート（工業部会）

分類	現状と課題	
	市の現状と課題の認識（マクロの視点）	委員の現状と課題の認識（ミクロの視点）
担い手	<ul style="list-style-type: none"> ●生産年齢人口は 2030 年には現在から 5,300 人減少する。(28,000→22,700) ●市内事業所数は減少傾向（全産業 2009 年 2,982→2016 年 2,655） ●求人数については一定規模で推移しているものの、求職者数は年間約千人単位で減っている。(景気の回復も影響か) ●企業の労働力の充足率は減少傾向。 ●市内企業の 88%が社員の不足・やや不足と回答している。 ●15 歳から 24 歳までの就学・就職による転出が多く、就学では転出先で就職する傾向が高い。大学生は地元に戻って来ない。 ●恵那・中津川地域の高等学校の市内就職率は 20%台で推移している。高校生充足率は求人数の増加により大きく減少。(H27 59.6% → H28 38.7%) ●人口減少による労働力不足に対する対策が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高卒の人材不足 <ul style="list-style-type: none"> ・工業団地等の大手の企業に流れてしまう。大手思考。 ・現場の高校生が不足。 ・工業、商業などの専門高校の縮小。 ・高校生の希望する大学が近隣にない。 ○大学生等の人材不足 <ul style="list-style-type: none"> ・大学生等の採用活動時に寮の有無を聞かれる。住宅助成がほしい。 ・グローバル化、外国語に対応できる人材の確保。 ・大学生等の高学歴の学生が働く場所がない。 ○人材不足（全般） <ul style="list-style-type: none"> ・定年を 65 歳までとした時の助成があれば良い。 ・姉妹都市や求人倍率の低い市町との人事交流（企業説明会等の開催）。 ・新卒、中途問わず不足。労働人口の減少が要因。(都市で働いている人への地元勤務のアプローチ) ・優秀な人材の不足。過疎化のイメージがマイナスか。 ・若手社員の不足。製造、施行分野。設計のみではなく現場もあるため敬遠される。 ・企業説明会の回数増。 ・窯業分野も人手不足。瑞浪市から社員が来ている。 ・専門業者不足により自社での対応による人手不足。 ・社員の高齢化により親の介護（通院）を理由にした休暇の増。病院への送迎バスの不足。 ・賃金を名古屋市と比較され、都市に流れる。 ○外国人労働者 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語を勉強できる場所の不足、PR不足。 ・外国人労働者は空き家を活用。 ・外国人労働者は中国人からベトナム人へ変わってきている。

産業の現状	<ul style="list-style-type: none"> ●地域経済の状況は市外への流出が大きく域内で完結していない。(地域経済循環率 82.9%) ●事業所数では卸売業・小売業が一番多く、次いで宿泊・サービス、製造業に続く。全国・県平均でみると製造業の割合が高い。 ●従業員数では製造業、卸売業・小売業の順で多く、全国・県平均と比較すると製造業の従業員数の比率が高い。 ●雇用者所得は総額では3次産業の所得が大きいが、特価係数で見ると2次産業のみ全国平均を上回る。 ●生産額・付加価値額・雇用者所得の特価係数で全国平均を超える産業は製造業で、その中でも産業分類の「パルプ・紙・紙製品製造業」「窯業・土石製品製造業」「プラスチック製品製造業」が大きい。 ●全産業において労働生産性が低く、全国平均を下回る。労働生産性を向上させる取組が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○産学官の連携がない。 ○労働生産性が低い。 ○地場産業の衰退。 <ul style="list-style-type: none"> ・廃業が多い。後継者不在、将来不透明が理由か。
製品・販路	<ul style="list-style-type: none"> ●調達先が市内企業ではない（見つからない）場合が多い。 ●近隣に大学が少なく産業連携が進んでいない。 ●販路開拓の支援が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内には調達先がない。 <ul style="list-style-type: none"> ・専門業者が市内には少なく他市に頼っている。 ・顧客が近くにいない。 ○原料の確保、高騰。 <ul style="list-style-type: none"> ・資源のリサイクルは地元で。 ・エネルギーコストの高騰。 ○海外への販路拡大。生産拠点の移転もあり得る。 ○高付加価値製品の製造・販売 <ul style="list-style-type: none"> ・素材産業（サプライヤー）のみ。高付加価値のオリジナル製品の開発。
土地・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●物流上の道路利便性は高い。 ●バス利便性が悪く通勤には使えない。 ●企業立地ニーズは高いが新たな事業用地がない。 ●工業用に利用可能な水（工業用水）は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通アクセスに特徴がない <ul style="list-style-type: none"> ・悪くはないが中津川、土岐と比べても特徴があるわけではない。 ・高速道路、国道等はあるが市街地のみ。周辺地の道路網は良くない。 ・特に恵那インター周辺の利便性が悪い。 ・公共交通機関の利便性が悪い。車がないと生活できない。 ○企業誘致（工業団地）は労働者の取り合いとなるため、人を連れてくるような誘致の仕方。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●支援情報入手に便利な媒体がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○補助金の申請が複雑、手間が掛かる。 ○働く側の意識変化。